平成 25 年度
遺跡調査報告会

新井田古館遺跡　竪穴建物跡

井戸跡から貝を発見！

新井田古館遺跡　井戸跡調査中

2013.11.16【土】

午後 2:00～4:00

主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　　**会場：体験交流室**

展示・報告遺跡

◉**館平遺跡**
（八戸市新井田　古代）
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
横山　寛剛

◉**新井田古館遺跡**
（八戸市新井田　中近世）
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
杉山　陽亮

特別報告

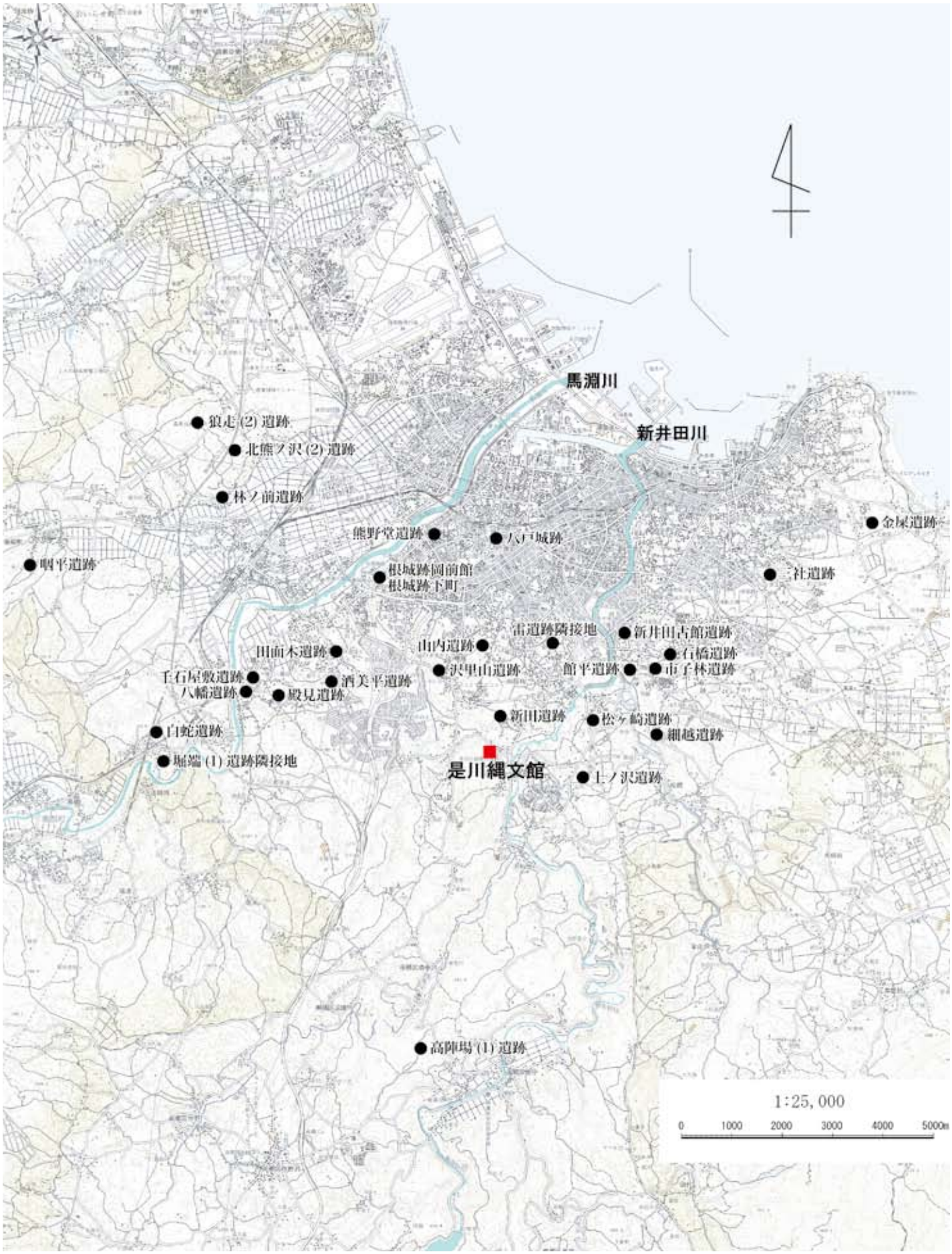
◉**千石屋敷遺跡**
（八戸市八幡　中近世）
青森県埋蔵文化財調査センター
文化財保護主幹　野村　信生氏

◉**野口貝塚**
（三沢市　縄文）
三沢市教育委員会
主事　工藤　司氏

展示遺跡

◉**八戸城跡**
（八戸市内丸　近世）

八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館
〒031-0023　青森県八戸市是川字横山 1
TEL 0178-38-9511　FAX 0178-96-5392
http://www.korekawa-jomon.jp



平成 25 年度発掘調査遺跡位置図

		遺跡名	時代・種類	所在地	調査原因	調査面積㎡	調査期間
試掘調査	1	館平遺跡隣接地	縄文・集落跡	大字新井田	個人住宅建築	10.5	4月17日
	2	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	35	4月16日
	3	新田遺跡	奈良・集落跡	大字是川	個人住宅建築	14	4月17日
	4	堀端(1)遺跡隣接地	縄文・奈良・平安散布地	大字上野	個人住宅建築	12	4月18日
	5	雷遺跡隣接地	縄文・平安・散布地	大字田向	個人住宅建築	8	4月23日
	6	根城跡岡前館	中世・城館跡	根城八丁目	賃貸住宅建築	3.5	4月30日
	7	殿見遺跡	古代・古墳	大字坂牛	個人住宅建築	18	4月30日
	8	八戸城跡	城館跡	内丸二丁目	店舗建築	4.5	5月9日
	9	三社遺跡	縄文・散布地	大字大久保	墓地造成	118	5月24日～25日
	10	山内遺跡	縄文・平安・散布地	大字糠塚	宅地分譲	259	5月29日～31日、8月3日
	11	白蛇遺跡	縄文・奈良・平安・散布地	大字上野	寺院建築	1068	6月4日～20日
	12	金屎遺跡	弥生・散布地	大字鮫	太陽光発電所設置	420	6月5日～20日
	13	田面木遺跡隣接地	平安・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	20	6月7日
	14	沢里山遺跡	縄文・平安・散布地	大字沢里	個人住宅建築	21	6月12日
	15	石橋遺跡	平安・集落跡	大字新井田	太陽光発電所設置	726	6月19日～27日
	16	三社遺跡	縄文・散布地	大字大久保	太陽光発電所設置	2458	6月25日～7月31日
	17	館平遺跡	縄文・集落跡	大字新井田	道路改良工事	48	6月28日
	18	酒美平遺跡	縄文・平安・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	37.5	7月26日
	19	細越遺跡	平安・散布地	大字松館	個人住宅建築	16	8月3日
	20	千石屋敷遺跡	縄文・散布地	大字八幡	個人住宅建築	13.5	8月6日
	21	八戸城跡	城館跡	内丸一丁目	個人住宅建築	40	8月6日
	22	八戸城跡	城館跡	内丸一丁目	店舗兼個人住宅建築	46.08	8月7日
	23	上ノ沢遺跡	縄文・奈良・平安・散布地	大字十日市	福祉施設建設	9	8月7日
	24	高陣場(1)遺跡	縄文・散布地	南郷区大字島守	資材置き場造成	664	8月7日～28日
	25	松ヶ崎遺跡	縄文・集落跡	大字十日市	個人住宅建築	26.75	8月8日・9日
	26	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	宅地分譲	582.5	8月20日～28日
	27	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	22.8	8月27日
	28	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	47	8月29日～31日、10月17日～24日
	29	咽平遺跡	縄文・奈良・平安・散布地	大字豊崎町	道路改良工事	120	9月3日～6日、9月18日～10月5日
	30	市子林遺跡	縄文・古墳～近世・集落跡	大字新井田	個人住宅建築	29.24	9月4日
	31	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	樹木伐採・整地	234	10月22日～29日
	32	八戸城跡	城館跡	内丸一丁目	舗装打ち換え	―	11月12日～30日予定
確認調査	1	根城跡岡前館	中世・城館跡	根城八丁目	個人住宅建築	40	4月3日～13日
	2	根城跡岡前館	中世・城館跡	根城八丁目	住宅解体及び樹木伐採・除根	43.25	5月15日～23日
	3	熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安・集落跡	長根二丁目	用地売買	240.4	9月11日～14日
本発掘調査	1	館平遺跡	縄文・集落跡	大字新井田	個人住宅建築	400	4月5日～5月2日
	2	新井田古館遺跡	中世・城館跡	大字新井田	集合住宅建築	1330	4月18日～6月15日
	3	千石屋敷遺跡	縄文・散布地	大字八幡	個人住宅建築	126	4月23日～25日、5月8日～18日
	4	八幡遺跡・千石屋敷遺跡	縄文～近世・集落跡	大字八幡丁	歩道整備	―	5月～7月
	5	新井田古館遺跡	中世・城館跡	大字新井田	集合住宅建築	290	7月2日～8月9日
	6	根城跡下町	中世・城館跡	大字根城	個人住宅建築	118	7月9日・7月12日～31日
	7	館平遺跡	縄文・集落跡	大字新井田	個人住宅建築	107	7月9日・7月19日～8月3日
	8	咽平遺跡	縄文・奈良・平安・散布地	大字豊崎町	個人住宅建築	24.75	8月2日・8月14日～24日
	9	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	10.5	8月1日・8月29日～9月5日
	10	館平遺跡	縄文・集落跡	大字新井田	道路改良工事	―	8月～10月
	11	狼走(2)遺跡	縄文・散布地	大字尻内町	鉄塔建設	345	9月4日～13日
	12	北熊ノ沢(2)遺跡	縄文・平安・集落跡	大字尻内町	鉄塔建設	304	9月17日～10月11日
	13	林ノ前遺跡	平安・集落跡	大字尻内町	自然崩壊	600	9月12日～10月31日
	14	館平遺跡	縄文・集落跡	大字新井田	道路改良工事	―	11月

平成 25 年度発掘調査遺跡一覧

館平（たてひら）遺跡

１．遺跡の概要

本遺跡は、八戸市庁から南東約 3.5km に位置します。新井田川と支流の松館川が合流するところの右岸にあたり、周辺よりも小高い段丘上に立地しています。遺跡の中心部は、中世の新田（にいだ）氏の居城「新田（にいだ）城跡」となっています。遺跡の北側には、新井田古館遺跡が隣接しています。

昭和 29・30(1954・55) 年に慶應義塾大学の江坂輝彌氏らによる発掘調査が行われました。この調査で出土した貝殻文様の土器が白浜式土器と名付けられ、縄文時代早期の標識資料となっています。これまで、八戸市教育委員会による 27 地点の試掘および発掘調査と青森県埋蔵文化財調査センターによる発掘調査が行われており、本遺跡が縄文時代、古代、中・近世の複合遺跡であることがわかっています。

縄文時代早期の遺構・遺物は、新井田小学校南側の調査区でみつかっており、白浜式期の竪穴住居跡 4 棟、寺ノ沢式期の竪穴住居跡 1 棟が検出されています。また遺跡の南東側では、縄文時代後期の十腰内Ⅰ式期の竪穴住居跡や土坑などが検出されています。

遺跡の南西に位置する、松館川および新井田川に面した緩斜面上には、平安時代の集落跡が広がることが確認されています。近年の調査では、遺跡東端を南北に通る県道差波・新井田線沿いの調査で、平安時代の遺構・遺物の検出が増えています。昨年度に調査を行った 24 地点では、平安時代末（12 世紀代）の竪穴遺構から常滑産陶器甕がみつかり、注目を集めました。

中世の遺構は、堀跡などがあり、その他、近世のお墓と墓石が検出されています。

２．検出遺構

今回報告するのは、八戸市教育委員会が調査を行った 25・26 地点です。

25 地点は遺跡南端の松館川に面する緩斜面上に位置します。4 月 5 日から 5 月 2 日に発掘調査を行い、調査面積は 400㎡です。調査の結果、縄文時代の土坑 2 基、平安時代の竪穴住居跡 6 棟、中・近世の掘立柱建物跡・溝跡（堀か）などが検出されました。平安時代の竪穴住居跡は、過去の調査でみつかった松館川に面する緩斜面上の集落跡の一部と思われます。

26 地点は大館中学校の西側に位置します。7 月 19 日から 8 月 3 日に調査を行い、調査面積は 107㎡です。調査の結果、縄文時代の溝状土坑（陥し穴）、平安時代の竪穴住居跡 2 棟、古代の溝跡 1 条、中・近世の掘立柱建物跡のものとみられる柱穴等が検出されています。

竪穴住居跡 2 棟のうち、SI34 にはカマドを中心に、多くの土器がみつかりました。また、住居の上屋を構成する木材が焼け落ち、炭化した状態で検出されています。

３．出土遺物

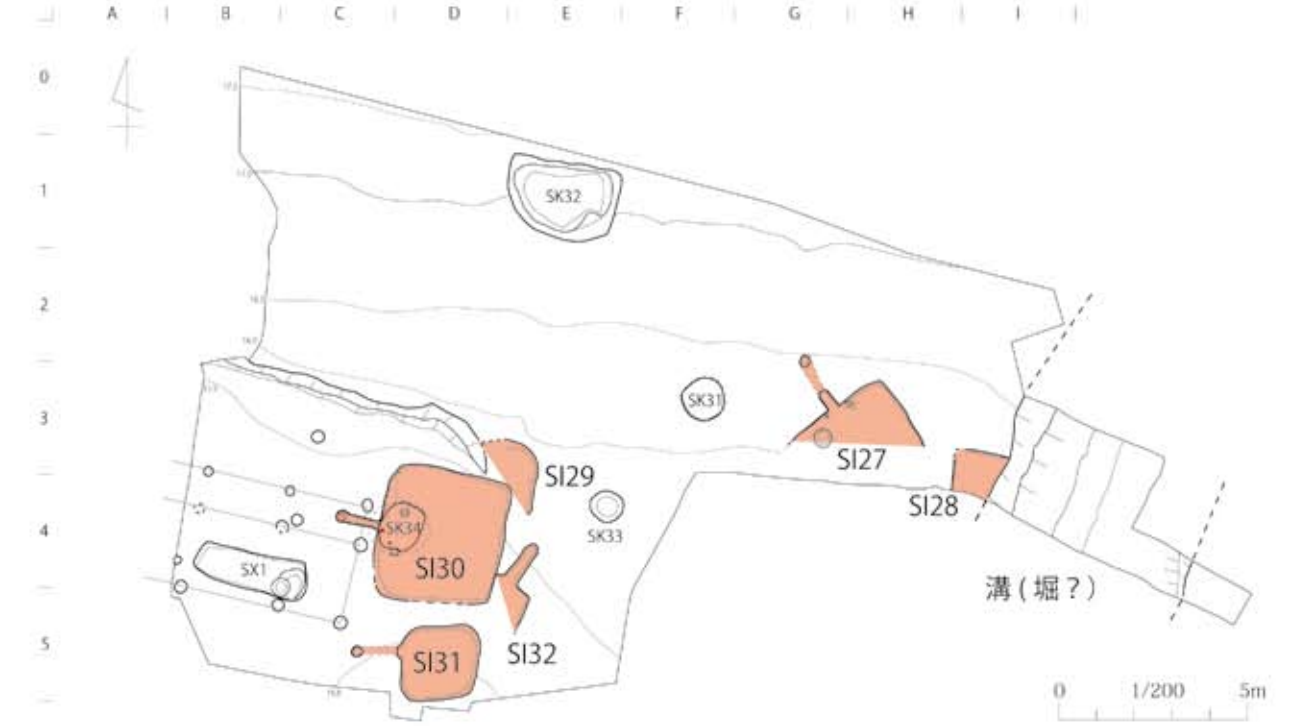
26 地点 SI34 から、土師器坏・甕、須恵器甕、鉄製品などが出土しました。土師器坏の底面には回転糸切痕がみられ、ロクロ成形により作られたことがわかります。また、脚が付く坏もみられます。25 地点で出土した土師器甕も、26 地点のものと特徴が似ており、これらの遺物は 9 世紀後半に属するものと考えられます。

４．まとめ

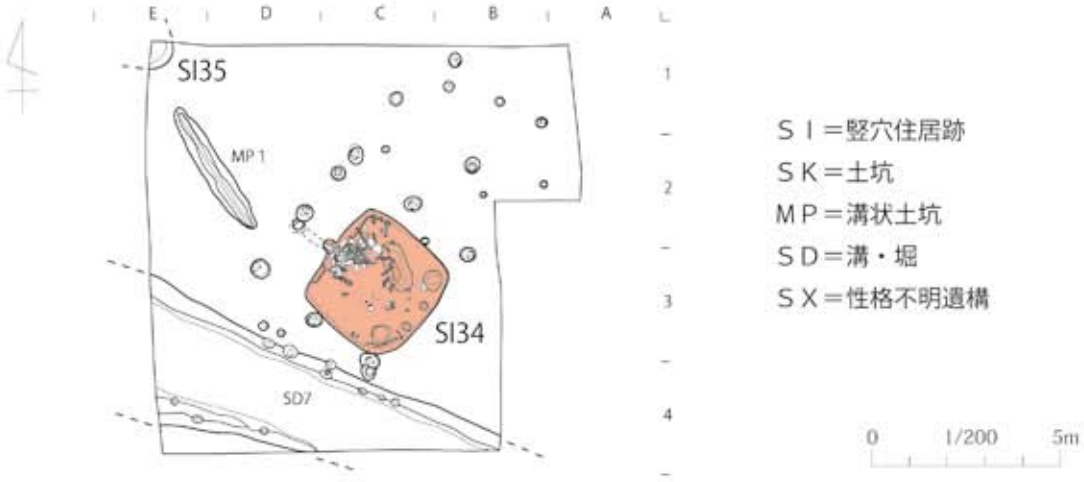
本遺跡ではこれまでの調査で、平安時代の竪穴住居跡が 20 棟以上確認されています。遺構の分布をみると、遺跡中央の台地を挟んで、松館川に面する西側と、県道差浪・新井田線沿いの東側の 2 つの住居群に分けることができます。今年度の 25・26 地点で検出された平安時代の竪穴住居跡は、それぞれ東側と西側の住居群の一部であったとみられます。

（横山　寛剛）

館平遺跡 25 地点遺構配置図



館平遺跡 26 地点遺構配置図



ＳＩ＝竪穴住居跡
ＳＫ＝土坑
ＭＰ＝溝状土坑
ＳＤ＝溝・堀
ＳＸ＝性格不明遺構

26地点SI34　火を受けて炭になった住居の屋根木材

26地点SI34　カマド周辺から出土した土器・礫

新井田古館遺跡（にいだふるだて）

１．遺跡の概要

本遺跡は新井田川下流域の右岸、現在の河口から内陸に約 3.7km の地点に所在し、川に向って西に傾斜する標高 4 ～ 10 mの緩斜面に立地しており、東西 300 m、南北 400 mの範囲を有しています。

本遺跡は古くから館跡として知られ、土塁や堀がその痕跡をとどめており、根城南部氏の最有力家臣である新田氏との関係が指摘されています。新井田氏の居城である新田城は本遺跡の南約750 mの地点に位置し、本遺跡は新田氏が新井田川一帯の水田を管理するために築城した館、新田氏の一番家老に相当する人物が居住した館、新田氏が新田城に移る前に居住していた説などがあります。

本遺跡では、平成 2 年から現在までに個人住宅建築等による 29 地点の調査のほか、平成 6 ～ 12 年に土地区画整理事業に伴う大規模な調査が実施されています。特に後者の調査では、縄文時代、弥生時代、古代、中～近世の多数の遺構･遺物が検出され､本遺跡が複数の時代にわたって使用されてきたことが明らかになっています。

２．検出された遺構・遺物

平成 25 年度では、アパート建築に伴い、28・29 地点の計 2 地点の調査が実施され、主に中近世（15 世紀～江戸時代）の遺構・遺物が検出されました。

〔28 地点〕

調査期間：平成 24 年 11 月 21 日～ 12 月 15 日、平成 25 年 4 月 18 日～ 6 月 15 日

検出遺構：縄文時代　溝状土坑 10 基、土坑 2 基

奈良時代　竪穴住居跡 1 棟

中近世　竪穴建物 5 棟、溝跡 10 条、土坑 11 基、井戸跡 13 基、性格不明遺構 1 基、土塁の一部、掘立柱建物跡多数

出土遺物：縄文土器、土師器、陶磁器、鉄製品、石製品

〔29 地点〕

調査期間：平成 25 年 7 月 2 日～ 8 月 9 日

検出遺構：縄文時代　溝状土坑 2 基

中近世　竪穴建物 2 棟、堀跡 1 条、溝跡 10 条、土坑 8 基、井戸跡 5 基、性格不明遺構 1 基、焼土遺構 2 基、掘立柱建物跡

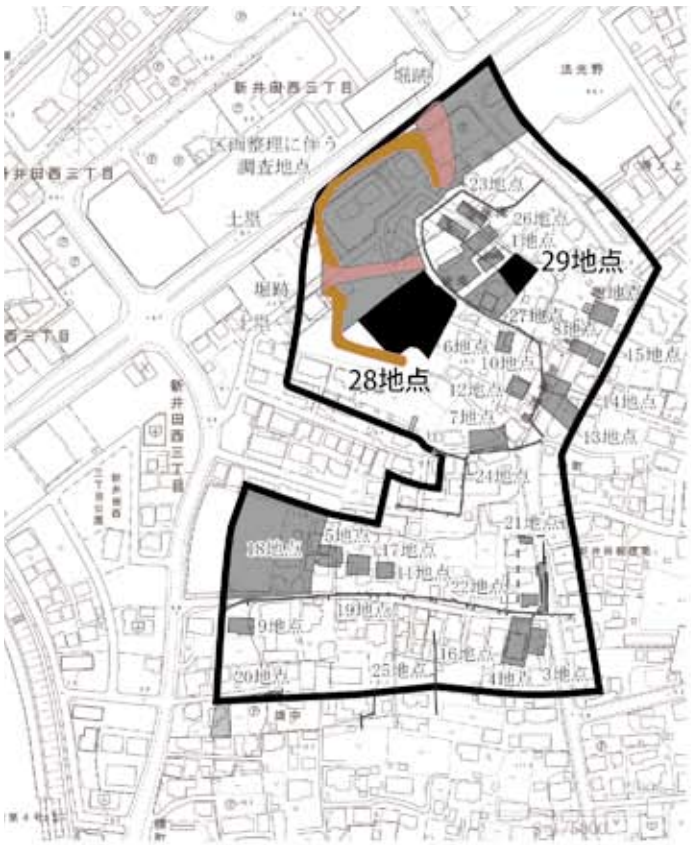
出土遺物：縄文土器、陶磁器、石器、貝

３．調査成果のまとめ

28 地点は、区画整理調査地点とともに土塁で囲まれた郭（くるわ）（曲輪）部分に該当し、本地点の調査では館の最も重要な場所として、当初、多数の遺構が検出されることが予想されました。しかし、本地点の発掘調査では、検出された遺構は、館が機能していた中世（15 ～ 16 世紀頃）のものが少なく、近世（17 世紀後半以降、江戸時代）のものが多いことがわかりました。中世では、土塁の内部に東西方向に走る大きな堀が存在し、内部は本地点（南側）と区画整理調査地点（北側）に分けられていたことがわかっています。今回の調査によって、北側の郭が館の中枢であり、主郭であったことが位置付けられました。

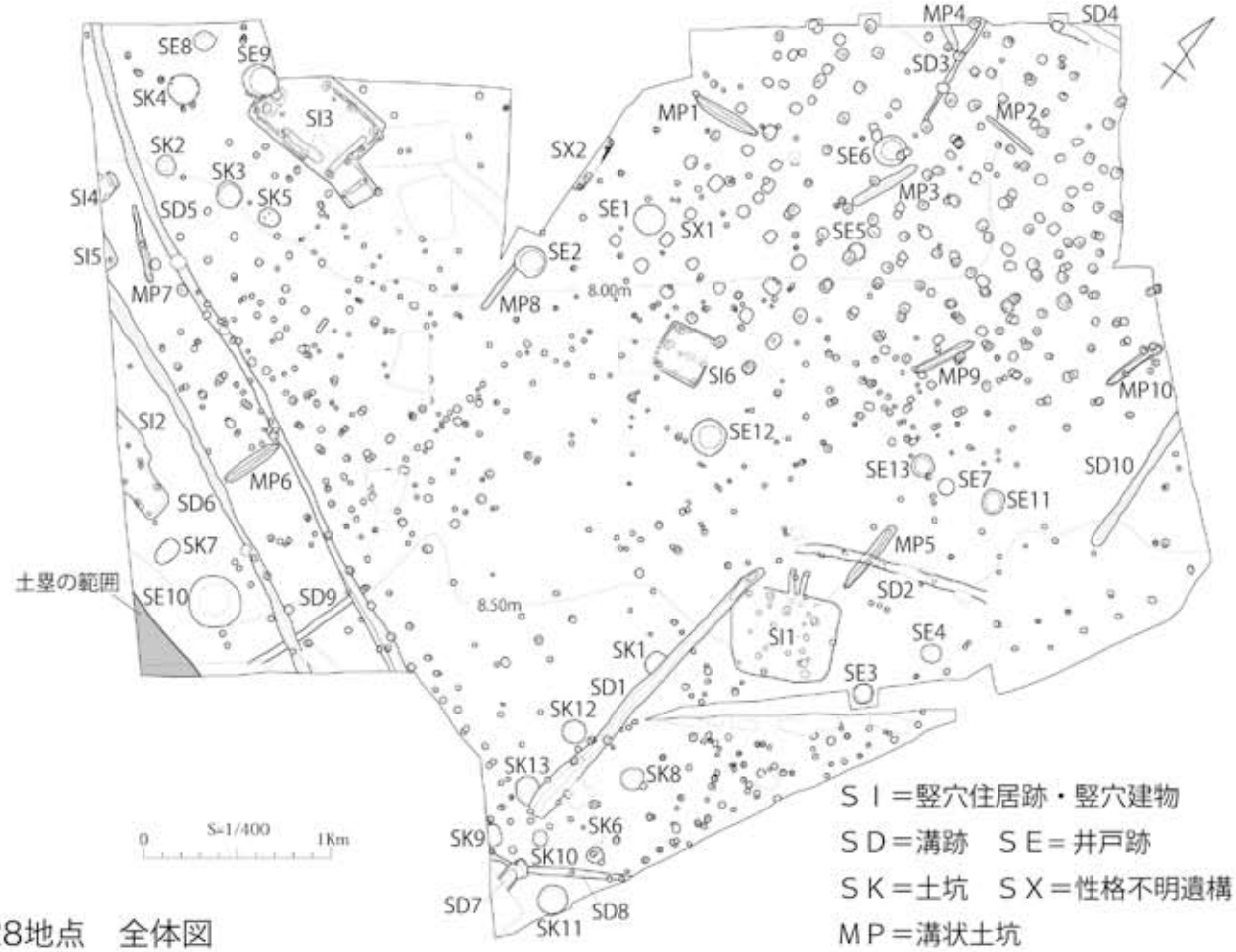
また、周辺地点の調査成果も含めると、区画施設である堀跡や土塁が機能していた 16 世紀頃までは館として機能し、主郭には関連する建物が多数あったと考えられます。17 世紀になると、郭を囲んでいた堀が埋め戻され、区画施設がなくなり、掘立柱建物などの遺構群が大きな広がりをみせるようになります。つまり、館としての機能を失うと、次第に日常生活の場として屋敷や納屋、井戸、墓（屋敷墓）などで構成される居住域がつくられていったと考えられます。

（杉山陽亮）



新井田古館遺跡　調査地点位置図

28･29地点　配置図



28地点　全体図

千石屋敷遺跡

１．遺跡の概要

千石屋敷遺跡は、豊富な文化財で知られる南部一ノ宮櫛引八幡宮が鎮座する八戸市南西部の八幡地区にあり、馬淵川右岸の標高６～20ｍの河岸段丘上に位置しております。周辺には縄文時代晩期から弥生時代にかけて集落が営まれた八幡遺跡（明治小学校一帯）や、平安時代の墳墓が多数作られた殿見遺跡（明治中学校一帯）などの著名な遺跡のほか、路傍の庚申塔などに未だ江戸時代の三戸街道の面影を残す国道 104 号が存在するなど、歴史や文化財に恵まれた土地柄です。

本遺跡は、これまでに行われた発掘調査より、縄文時代および中・近世を中心に営まれた遺跡であることが明らかになっています。

２．主な成果

今年度は、国道 104 号と宅地･店舗との間に位置する細長い範囲を 930㎡調査しました。その結果、櫛引八幡宮や三戸街道が栄えた頃に形成されたと考えられる建物の柱穴（Pit）・墓・地下室などが発見されました。このほか、縄文時代の落とし穴もわずかながらみつかっております。

柱穴で注目されるのは、中国からの渡来銭である永楽通寶（1408 年初鋳）が埋納された３基です。Pit459 には２枚、Pit471 は７枚以上、そして Pit474 からは２枚以上出土しており、今のところ他の貨幣は見当たりません。永楽通寶が特に選ばれた理由は定かではありませんが、もしかすると、当時の人々が「永楽」という文字の持つ意味を好み、家の繁栄や安泰などを願って埋納したのかもしれません。なお、柱穴の中心同士の距離は、Pit459 から 474 が 2.4 m、Pit471 から 474 が 2.8 m と､中世の基準で建てられているものと思われます。これらは中世後半の建物の一部といえそうです。

墓は中世と近世の土坑墓がみつかっております。いずれも地面に穴を掘って遺体を埋めた土坑墓です。中世の墓（SK22）は、横臥屈葬（おうがくつそう）の状態で人骨が埋葬されており、銭貨が 12 枚副葬されていました。最も新しく鋳造された銭は宣徳元寶（1433 年初鋳）であることから、これよりも後に作られた墓と考えられます。他方、近世の墓（SK43）は、人の歯のみが残っていた状態で具体的な埋葬方法は解りませんが、副葬品として寛永通寶（背文：1668 年初鋳）と漆の塗膜（とまく）がみつかりました。

地下室は２基発見されましたが、最も目を引くのは百数十年ほど前の江戸時代後期ごろに焼失したと考えられる SK47 です。平面が一辺 3.2 m前後、深さ 1.5 mほどであり、内部には柱穴が整然と並びます。埋め戻した土からは、伊万里や産地不明（小久慈焼か）の碗が出土しました。県内において、こうした施設の発見例は稀です。

3. まとめ

今回の調査では、中・近世の遺構が主体的に認められました。これらは中世の宝物を多数所蔵する櫛引八幡宮や、三戸街道の歴史とも深く関わっていたことでしょう。今後、付近で営まれていた縄文時代や平安時代の生活も考えつつ、本遺跡の様相を検討していきたいと思います。

（野村　信生）

中世の墓（SK22）

永楽通寶が出土した柱穴
（上：Pit471　下：Pit474）

江戸時代の地下室（SK47）

野口（のぐち）貝塚

１．遺跡の概要

野口貝塚は三沢市役所の北 9.8km、小川原湖東岸から 100 m程離れた標高 10 ～ 30 mの段丘上に立地します。面積は約 30,000㎡であり、現状は畑地および山林です。

昭和 36(1961) 年、畑の耕作中に縄文時代晩期の土器や石器が多く出土したことで遺跡の存在が知られ、昭和 37(1962) 年 7 月、立教大学・小川原湖民俗博物館・三沢市教育委員会による発掘調査が実施されました。調査の結果、縄文時代早期～晩期 (約 9,000 ～ 2,500 年前) の各期にわたる遺跡であること、貝塚が東西 30 ×南北 10 mの範囲に分布すること、貝塚は早期の終わり頃～前期のはじめ頃に形成されたと考えられ、鹹水産の貝類が大部分を占めることなどが確認されています。上北地方では晩期の遺物が多く出土する遺跡が少ないこともあり、この調査を機に野口貝塚の名が広く知られることとなりました。

２．調査成果

今回の調査は農地造成に伴うものです。今後の基礎資料となる遺跡の内容確認が目的で、調査面積は 125 ㎡です。新たに得られた主な成果は、以下のとおりです。

地形：①畑地として利用されていた中央部の平坦地 (以下「平場」) は、埋没した谷地形であることが確認されました。平場の東側は現在も東に弧を描いて遺跡南側の湿地帯へと下る高低差 6 m程の谷地形であり、これに連続すると考えられます。

②平場の南側にある東西方向の土手状部分から、幅 (高低差)10 ～ 90cm 程を測る断層の痕跡が複数確認されました。この土手状部分は成因など今回の調査では不明な点が多く、なお検討を要します。

遺構：①平場の南半部東側から、縄文時代前期末葉の遺物捨て場を検出しました。東西間約 15 m離れたトレンチで同様の状況が確認されたことから、少なくとも東西 15 m以上の規模で拡がっていると考えられます。

②上記した捨て場の下層から貝塚を検出しました。今回は検出に留めているため詳細は今後検討していくことになりますが、時期は縄文時代前期初頭～前葉と推定されます。過去の調査で確認された貝塚もほぼ同時期と考えられることから、遺跡内におけるこの時期の貝塚の分布が拡がる可能性があります。

③平場の東側中央部から、小規模な貝塚 (ブロック) を検出しました。検出地点の下層は今後調査を行うため時期は断定できませんが、現在のところ縄文時代早期中葉頃と推定され、小規模ながらも貝塚としては県内でも最古段階の可能性が考えられます。

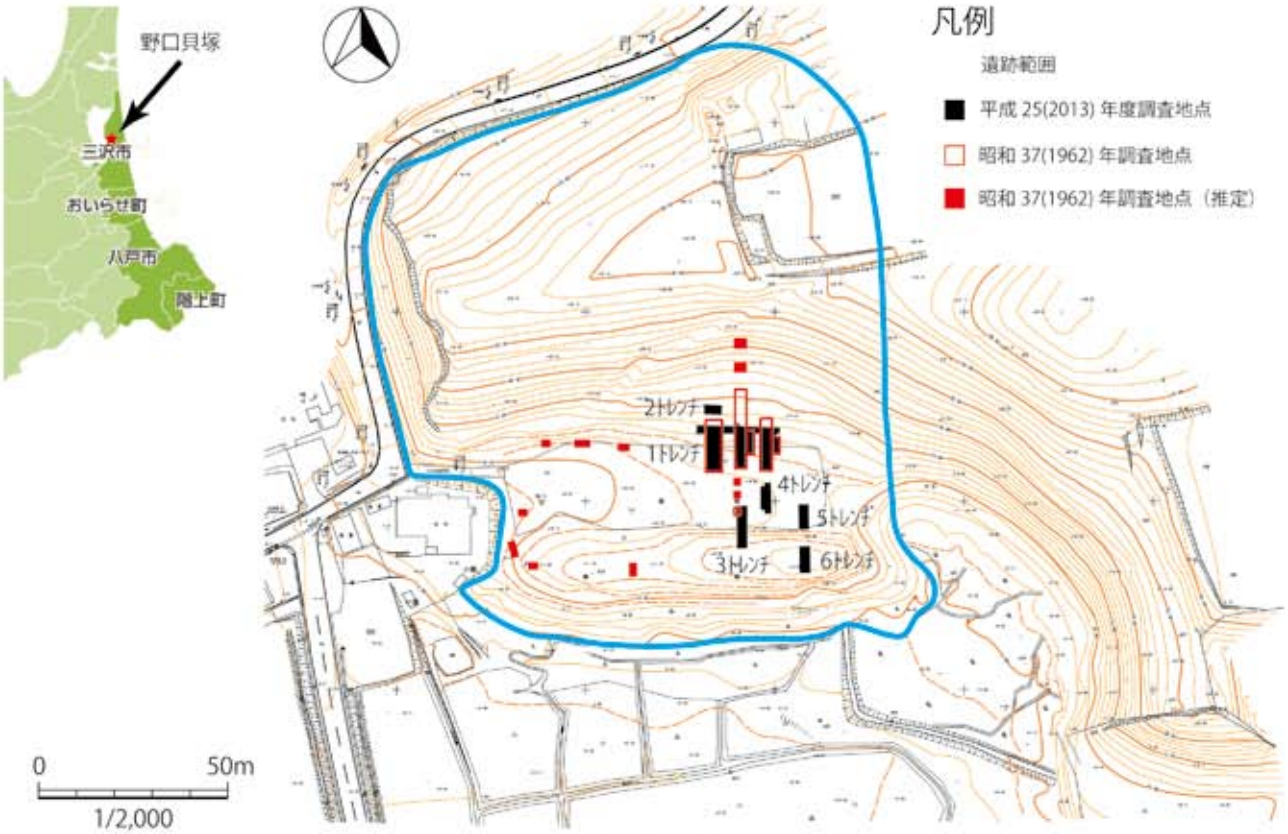
遺物：①縄文時代早期 (前葉・中葉・後葉・末葉)、前期 (初頭～前葉・末葉)、中期 (初頭～前葉)、後期 (前葉・末葉 ?)、晩期 (初頭 ?・ 中葉) の遺物が出土しており、縄文時代の草創期を除くほとんどの期間、この地で何らかの活動が行われたと考えられます (過去の調査では、後期後葉、晩期後葉の土器も出土しています)。

②貝輪が 14 点確認されました。時期は縄文時代早期末葉～前期初頭と思われます。素材は 13 点がベンケイガイ (残り 1 点はアカニシガイ) であり、製作時における素材の選択性が窺われます。

３．まとめ

以上が今回の主な調査成果です。新たに得られた情報がある一方、地形の成り立ちや断層の時期、捨て場や貝塚を形成した人々の居住域の存在、各時期の自然環境との関係性など、成果以上に多くの疑問や課題が浮上しました。縄文時代早期～晩期の約 6,500 年間、断続的ではありますが当時の人々がどのような活動をしていたのか、今後の調査で検討してきたいと思います。

(工藤　司)



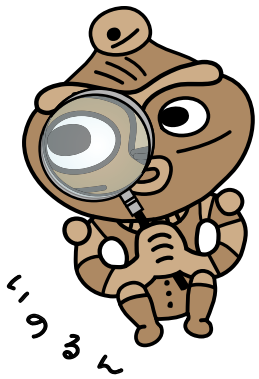
野口貝塚周辺地形図

5トレンチ　縄文時代前期末葉の捨て場検出状況(南西から)

5トレンチ　捨て場(左写真)の下位　貝塚検出状況(西から)

4トレンチ　縄文時代早期中葉?貝ブロック検出状況(東から)

4トレンチ　貝ブロック断面(北から)

平成 25 年度　八戸市遺跡調査報告会次第

13：00　報告会展示室開場（２階研修室 ）
13：30　報告会受付開始
14：00　開会挨拶
14：05　調査成果報告　館平遺跡
14：35　調査成果報告　新井田古館遺跡
14：55　10 分休憩
15：05　調査成果報告　千石屋敷遺跡
15：25　調査成果報告　野口貝塚
15：45　質疑応答
16：00　閉会挨拶
閉場（ 報告会展示室は 16：30 まで ）